

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079600534
法人名	特定非営利活動法人 あたか
事業所名	グループホーム あたか
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2 (電話) 0947-72-5181

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 21 年 7 月 20 日
評価確定日	平成21年8月3日

## 【情報提供項目より】(平成 21年 7月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	13 人 常勤 3 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5 人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	4,000 円	
敷金	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(無)	有りの場合 償却の有無	(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(7月12日現在)

登録人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高	96 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎町立病院 日高医院 五嶋歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山郷にあるグループホームあたかは、開所5年目の1ユニットのホームである。ホーム理念の「人生の先輩である高齢者の尊厳を護るケアの提供」を、社是、笑顔の十ヶ条、介護の三原則を朝の朝礼で唱和しながら実践している。地元出身の運営者は「昔は行商をしたり、何回も嫁に行ったりと本当に苦労した人が多い」と話しており、入居者への深い愛情に基づくホーム理念である。近隣の農家からの入居者も多く、開所以来ホーム入り口等にある畑で、入居者と季節の野菜をそだてて収穫し、調理して味わう生活を継続している。年々、調理や後片付けができなくなった入居者もいるが、職歴・生活歴、その日の体調で献立の相談、調理の下ごしらえや洗濯物たたみ等で役割探しや出番を作っている。職員の「食器洗いを手伝ってください」と絶妙なタイミングで声を掛けられた入居者の笑顔や行動は、目を見張るものがある。看護職が日々の健康を管理しているが、既往症の悪化や脳梗塞等の発症で入院になることもあり、付き添えない家族に替わって職員が付き添ったり、洗濯物のお世話で頻回に面会するなど医療機関と連携しながら認知症状の悪化を防止している。今後は、運営推進会議や会議後の家族との交流で、ホーム運営に協力や理解をお願いすることで地域との交流の促進が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果に沿って、個人情報保護に関する規程を整備し、玄関に掲示している。また、職員の個人情報の管理方針を整備し、職員と守秘義務の誓約書を取り交わしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者が中心になって職員の意見をまとめ、自己評価を実施している。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。ホーム行事や外部評価結果の報告、入居者の無断外出に地域の協力を得ていることを報告している。調理に中国産の野菜を使用していないかとの家族の質問には、地元の野菜を使用していることを説明し、議事録を整備している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 毎月の入居利用料等支払いに来訪した家族に、入居者の日ごろの暮らしぶり等を報告している。また、運営推進会議後にも入居者の状況を説明している。医療機関受診を支援し、随時家族に受診状況を連絡している。預かり金はなく、ホームが立替え領収書を添付している。地域権利擁護事業や成年後見制度を入居者や家族に説明するために、パンフレットを整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区自治会への加入はないが、近隣住民から野菜や卵等の差し入れがあったり、犬の散歩にくるなど、日ごろから交流している。町の福祉まつりの見学に出かけたり、盆踊りの巡行やクリスマスには子ども会の訪問がある。また、入居者家族がボランティアとしてホームの花壇の整備に来たりしている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人生の先輩である高齢者の尊厳を護るケアの提供をホームの理念に掲げ、事務所や玄関正面に掲示している。理念を具現化するために、社是、笑顔の十ヶ条、介護の三原則を掲げたり、契約書に「グループホームとしての誓い」を明記している。	○	地域との交流はすすみつつあるが、重要事項説明書やパンフレットに地域密着型サービスの基本方針である「家庭的な環境、地域との交流の下」を明記していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で、社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則を唱和している。運営者は実務の中で気付きを促し、職員は振り返りをすることもある。ホーム理念に沿った介護計画を作成している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会への加入はないが、近隣住民から野菜や卵等の差し入れがあったり、犬の散歩にくるなど、日ごろから交流している。町の福祉まつりの見学に出かけたり、盆踊りの巡行やクリスマスには子ども会の訪問がある。また、入居者家族がボランティアとしてホームの花壇の整備に来たりしている。	○	入居者家族に「あたか便り」を発行しているので、さらに地域交流を促進するために、運営推進会議メンバーや民生委員等の地域に方々に、ホーム行事等を記載したホーム便りの発行を検討されては、いかがでしょうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者が中心になって職員の意見をまとめ、自己評価を実施している。前回の外部評価結果に沿って、個人情報の保護に関する規程を整備し、玄関に掲示している。また、職員の個人情報の管理方針を整備し、職員と守秘義務の誓約書を取り交わしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。毎回テーマを決めてホーム行事や外部評価結果の報告をしたり、入居者の無断外出に地域の協力を得ていることを話している。調理に中国産の野菜を使用していないかとの家族の質問には、地元の野菜を使用していることを説明し、議事録を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議ばかりでなく、窓口に出向き相談等を行っている。地域包括支援センターから、入居の状況の問い合わせがあったりしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域権利擁護事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備している。一昨年は運営推進会議に参加した行政職員に、制度運用について話をしてもらっているが、現在まで活用する入居者はいない。	○	退居があり、今後新規入居も予測されることから、入居時に成年後見制度等について説明し、記録の整備をお願いしたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の入居利用料等支払いに来訪した家族に、入居者の日ごろの暮らしぶり等を報告したり、「あたか便り」を送付している。また、運営推進会議後にも入居者の状況を説明している。医療機関受診を支援し、随時家族に受診状況を連絡している。預かり金はなく、ホームが立替え領収書を添付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームや公的機関の意見・苦情窓口を重要事項説明書に明記し、玄関に意見箱を設置している。家族会はないが、家族来訪時や運営推進会議で意見や要望を伺う機会を設けている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係作りの重要性を理解しているが、年間所得103万円以内での就労を希望する職員もあり、職員の確保が課題となっている。新任職員には現任職員が入居者の情報やケア内容を詳細に伝達している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は特に基準はなく、運営者の人柄による紹介や顔見知りが多い。雇用契約書を取り交わし、就業規則を整備している。職員の定期健康診断を支援したり、職員の要望に沿った勤務時間等で、職員が生き生きと勤務できるよう支援している。1日の流れで休息をとれないこともあるが、職員間の意見交換等でストレス解消に努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	日々ホームの社是・笑顔の十ヶ条・介護の3原則を唱和し、入居者の尊厳について話し合っている。運営規程や契約書に身体拘束について明記し、身体拘束・高齢者虐待防止マニュアルを整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は作成していないが、毎月勉強会を行っている。新任職員は運営者や現任職員が業務内容や記載様式等を指導している。職員の悩みは、運営者で対応している。	○	実施した勉強会の内容に基づき、年間研修計画を作成してはいるかがでしょうか。また、人権や接遇、認知症のケアについて勉強しているので、開催日・研修題目・研修内容・参加者名等の研修実施記録の整備をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会への加入はなく、同業者との交流はない。	○	福岡県における認知症に関する研修等の情報を得るためにも、福岡県高齢者グループホーム協議会の加入や他のグループホームとの交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学はしたが意向に沿わず入居に至らなかったケースや体験利用から入居に至ったケースもある。入居者の帰宅願望等の対処は、協力医療機関に相談したり家族に協力をお願いしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として接しているが、排泄介助時の「ありがとう」との入居者の言葉に感動し、介護の醍醐味を味わうこともある。料理の下ごしらえや畑づくりの手際の良さに感動し、教えてもらうことが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や心身の状況を把握したフェースシートやアセスメントシートを整備し、ミーティングで日々の関りでの気づきを共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで情報を収集し、課題を抽出、介護計画を作成している。担当者会議で、入居者や家族の意向を話し合い介護計画を作成している。介護計画には入居者や家族の意向を明記し、入居者や家族に説明している。了承した家族の署名・捺印を整備している。	○	業務日誌に記載された職員の気づきを充分に活用するために話し合いの記録の整備をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングや評価を実施し、入居者の状況に応じて、6ヶ月または随時介護計画を見直している。見直した介護計画を入居者や家族に説明し、了承した家族の署名・捺印を整備している。	○	介護作成担当者が交代していることから、モニタリングや評価に沿った再アセスメントをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、医療機関受診を支援している。入院になったが付き添えない家族に替わって、職員が付き添ったり洗濯物の世話で、入居者の不安を軽減している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関ばかりでなく、入居者のかかりつけ医や眼科、皮膚科受診を支援している。入居者毎に医療機関受診記録を整備し、受診状況や医師の指示を整備し、随時家族に連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合における対応として、医療連携体制や入院時の対応について具体的に明記している。既往症の悪化等で医療機関に入院した経緯は、記録を整備している。現在まで、入院先で亡くなった入居者はいないが、ホームでの看取りはない。運営者はホームの現状では看取りは難しいと話している。	○	ホームの現状では看取りは難しいとのことですが、終末期の対応の指針や本人や家族の意向確認書の整備を期待します。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や利用目的を明記した書面を玄関に掲示している。契約書に「グループホームとしての誓い」として礼節と尊厳について明記するとともに、個人情報の取り扱いや守秘義務を明記し、職員も守秘義務を誓約している。毎日の朝礼で、社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則を唱和し、利用者の尊厳を損なわない対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や気分に応じて、居室で食事を摂ってもらったり、朝の体操や民謡や懐メロを歌うレクリエーションに誘っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の生活暦や職歴、力量に応じて調理の下ごしらえ、味つけ、後片付け、食器洗い等を支援している。訪問調査当日の昼食は入居者の好物のちらし寿司で、全量摂取の入居者がほとんどである。若い男性職員の食事を入居者が気遣うなど、全職員で和気藹々と食事をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴を支援しているが、汗が多かったり、下着が汚染されていると朝から入浴が行われている。入浴を拒否しがちな入居者の要望で、最後に入浴をしてもらったりしている。状況によっては、職員も一緒に浴槽に入るなど、入居者の不安解消に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日午前中に、玄関のソファ等に座り、体操したり、民謡や懐メロを歌っている。抑うつ的であった入居者が大きな張りのある声で歌うなど、明るく元気な歌声がホームに響いている。昼の間に洗濯物をたたんだり、近隣で農業に従事していた入居者は楽しみながら芋ほりや草取り等をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候を配慮し、ホーム周辺を散歩したり、お彼岸に近隣のお寺参りをしている。入居者の希望で、ドライブをかねて近隣に買い出しに行くこともある。今年は花見行事が頻繁に組まれ、おにぎり持参でたのしいをひと時を送っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、夜間以外は施錠していない。玄関前に事務所があり、入居者の動向を把握している。訪問調査当日も玄関から出掛ける入居者に自然な声掛けをしている。近隣に理解や協力をお願いしているので、電話連絡があったこともある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の連絡網や避難経路等を整備し、消防署の協力で避難訓練を実施している。その折に、消防署員から入居者に「歩く訓練をしていますか」と話してもらっている。消火器を整備し、畑で採れたジャガイモ等を備蓄している。近々、町が水道管を整備するので、火災時の対応がしやすくなると話している。	○	今後は夜間避難訓練を検討しているとのことなので、是非実践していただきたい。また、被災された近隣の方々に緊急避難場所として、共有空間の提供をするなどで、相互の協力や理解の促進を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護支援記録に毎食の摂取量や水分摂取量を記載している。毎食時、服薬後、入浴後は必ず水分摂取を支援している。入居者の嗜好や嚥下・咀嚼状態、空間失認を把握した食事支援で全量摂取の入居者がほとんどである。毎月体重測定をしているが、過度増減はない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周囲の花壇には季節の花が植えられ、入居者の家族がボランティアで草取りをしている。上がり口の段差を解消した玄関は下駄箱上の水槽で熱帯魚を飼ったり、季節の花が活けられている。厨房と一体となった食堂や畳みの間が設けられているが、廊下から見えるガラスを組み入れた戸で仕切られているので、職員や入居者はお互いの姿や動向が確認できる。厨房には、四方から使用できるキッチン台が設置され、入居者がテーブルに座って食材の下ごしらえをしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みや心身の状況に応じて、ベッドや布団を使用している。家族の写真や好みの日用品が置かれ、入居者が居心地の良い居室づくりがある。		